

【公開文書 3】

臨床研究

「糖蛋白をターゲットとした新規膵癌早期診断システムの構築」 について

筑波大学附属病院消化器外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究対象

平成 15 年 1 月以降に当院で膵臓癌の切除術を受けた患者で、以下の方を対象と致します。

- i) 当臨床研究が倫理委員会にて承認される以前（平成 27 年 6 月 30 日まで）に、当院で手術を施行された患者様で、手術のインフォームドコンセントを確認させて頂く同意書（手術の説明文章）で、手術検体を研究目的に使用する項目に同意を頂いている患者様

（注：本文書を病院の外来・ホームページに掲示することで、患者様個々への説明と同意文書取得の代替とさせていただきます。）

- ii) 当院倫理委員会承認後～平成 32 年 3 月 31 日までに当院で手術を受けた患者様に関しては、手術内容の説明時に個別にご説明させていただきます。

② 研究の意義・目的・方法

膵癌は早期に発見し、早期に手術を行うことが唯一根治を望める治療とされています。しかし、診断された時に手術で治せる患者さんは約 2 割程度しかいないのが現状です。膵臓にできた 2 cm 程度のがんを見つけるには、造影剤を用いた CT 検査を行うのが最も有効ですが、検診で全員にこの検査を行うのは医療経済的にも問題があり、早期発見は他の検査で偶然見つかるというケースがほとんどです。また、腫瘍から分泌され血液中に流れている腫瘍マーカーも、膵癌でも上昇しなかったり、他の病気でも上昇したりと決め手に欠けます。

我々は細胞の顔と称される「糖鎖」に着目し、同じつくば市内にある国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）の研究者と共同で、膵癌に特徴的に発現する新たなマーカーの候補となる「糖蛋白質」を発見しました。この物質は産総研が独自に開発したシステムで簡単に検出可能となっており、癌細胞から血液中に分泌された「糖蛋白質」が血液中に検出できれば、膵癌の新規発見につながる可能性があります。これらを確認するために、当院で膵癌の手術を行った患者様の検体の一部（病理診断に影響しない範囲）、もしくは採血の検体を使って、この「糖蛋白質」を新たな膵癌の診断マーカーとして用いることができるかを調べ、膵癌早期発見にむけた新しいシステムを作ることを目指すものです。

③ 研究機関名・研究者名

筑波大学附属病院 消化器外科

大河内 信弘, 小田 竜也, 橋本 真治, 黒川 友博, 稲垣 勇紀, 下村 治, 小澤佑介

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 糖鎖工学レクチンチーム

平林 淳, 舘野 浩彰

④ 保有する個人情報に関する利用目的

個人が特定されない形での論文発表, 学会発表を行うことがあります。どの発表形式においても、個人を特定するような名前, 住所, イニシャル, カルテ番号などの項目は使用致しません。

⑤ 保有する個人情報の開示手続

対象となった患者様, あるいはご家族には研究内容についてお答えすることは可能です。また本研究に診療情報の提供を希望されない方につきましても, 対応いたしますので問い合わせ先にご連絡下さい。

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院消化器外科（対応時間：平日 9:00～17:00）

〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

研究責任者：消化器外科 大河内 信弘

研究担当者：消化器外科 小田 竜也

連絡先 電話：029-853-3221 FAX：029-853-3222